



第9回 能登町民文化祭

能登町文化協会主催の第9回能登町民文化祭は11月2日、3日の両日、柳田地区の各施設で開催されました。

展示部門は柳田体育館で開催され、書道や手芸、菊花など芸術の秋にふさわしい趣向を凝らした展示が来場者を和ませました。

芸能発表は3日に開催。民謡や舞踊、詩吟、コーラスなどが柳田小学校体育館で行われ、集まった約100人の観客から大きな拍手が贈られました。



小木地区ににぎわいを ミニミニイカす会

10月27日、小木地区活性化センターの駐車場を主会場に、「ミニミニイカす会」が開かれました。

かつて「産業フェスティバル」として、イカの町小木をPRしようと言われていた「イカす会」。2008年を最後に開かれていませんでしたが、小木地区の有志の活動によって5年ぶりに復活しました。

「ミニミニ」という名前ながら内容は盛りだくさん。船凍イカの段ボール箱を積み重ねたものを崩さないように運ぶ競争や、凍ったイカの内臓を早く抜く競争など、小木ならではの競技で盛り上がり、笑顔があふれました。



▲空き箱を崩さないように走る



大漁旗が港町小木を演出（右）

冷凍したイカから内臓を抜く早さを競う「船凍イカ早抜き選手権」（下）



今年を笑い、来年の豊作を願う 鵜川いどり祭り

鵜川の菅原神社で11月7日、「いどり祭り」が行われました。「いどる」というのは悪口を言うということを意味します。

今年の当番は小垣と七見地区です。来年の当番のおやっさまが直径約1.2mの大鏡餅を持ち上げると、周囲から「シワを粉でごまかしている」「欠けている」など口々にけなしました。

これに対し、餅を作った今年の当番は「持ちやすいようにわざと欠けさせた」などと応酬。笑いに含まれる中、神主の仲裁によって無事、来年の当番が餅を引き取ることになりました。



▲大鏡餅を持ち上げる来年の当番のおやっさま

各地で防災訓練実施

11/16 ④小木地区防災訓練

今年で3回目の小木地区防災訓練は11月16日に実施されました。小木中学校、小学校や小木地区自主防災組織などが主催したものです。今回は小木小学校が主会場。午前10時に避難を開始しました。能登海上保安署や陸上自衛隊などの各機関が協力しました。

中学2年生は、小学4年生と共にハザードマップを作成しました。避難してきた小木地区の人も見学し、津波の被害想定範囲を確認しました。中学3年生と小学6年生は、陸上自衛隊の炊飯器材で炊かれたご飯でおにぎりを作り、避難所となった体育館で配布しました。柳田中学校でも3年生の生徒によっておにぎりが作られ、小木小学校に届けられました。

中学2年生と小学4年生の合同授業



訓練に参加した約500人の住民は、生徒らが作ったおにぎりとお肉がゆが用意された汁を食べ、避難生活を体験しました。

午後からは中学3年生と小学6年生は傷病者の搬送などを体験しました。そのほかの学年は、自衛隊が東日本大震災で使った救助資機材の説明を受けたり、救援の写真を見たりして自衛隊の活動を学びました。

児童生徒を保護者へ引き渡す訓練も初めて行われ、災害発生時の手順を確認しました。



11/16 ⑤石川県原子力防災訓練

11月16日、石川県の原子力防災訓練が行われ、能登町でも能都中学校と藤波運動公園を会場に、避難者の受け入れ訓練が行われました。



避難所となった能都中学校の第2体育館には、午前10時ごろからバスで志賀町の富来地区の住民や、富来小学校児童ら約200人が避難してきました。

体育館の入口には体表面の放射線量を測る特殊車両が設置されたほか、体育館内には珠洲警察署の臨時交番も設けられました。町の保健師も除染や健康相談を想定し参加しました。

11/17 ⑥鵜川二区自主防災組織防災訓練

鵜川二区町自主防災組織は11月17日、設立後初となる防災訓練を実施し、住民約60人が津波を想定した避難訓練に参加しました。

救命救急や消火栓ホース、及び消火器の取扱いについて講習を受け、炊き出し訓練も同時に行われました。

二区町自主防災組織の益田英治会長は「鵜川の中でも二区町は特に津波の被害を受けやすい地域。定期的に訓練を実施し、防災意識を高めたい」と話しました。



消火訓練を行う住民